各地で相次ぐ停電

不安定な天気、今後も続く可能性が

◆関東で大気不安定 暑さ厳しく激しい雷雨、停電相次ぐ

関東地方では24日夜、大気が不安定になり局地的に雷を伴う激しい雨が降った。落雷の影響で東京を中心に1都2県で一時約1万2400軒が停電し、都内西部では、床上・床下浸水などの被害が相次いだ。

気象庁によれば、各地の1時間雨量は東京都世田谷区で42.5ミリ▽埼玉県鴻巣市で42ミリ▽東京都練馬区で40.5ミリなど。練馬区の1時間雨量は7月の観測史上としては最大となった。

また、武蔵野市によると、市の雨量計が午後6時半からの1時間で約72ミリを観測。床上浸水の連絡が約30件寄せられた。床下浸水も含めると被害は100件近くだ。

東京電力によると、落雷による送電線のトラブルが原因とみられる停電が24日午後6時半ごろ発生。東京で約1万1700軒、千葉、埼玉と合わせ計約1万2400軒が停電した。

この影響で小田急小田原線、京王井の頭線、東急世田谷線が一時運転を見合わせた。京王電鉄井の頭線は、47本が運休するなど帰宅のラッシュ時の1万3000人に影響した。

＝成城学園駅前（24日午後6時半頃）

◆一時3万世帯近く停電

日本列島は27日も北海道を除いて全国的に厳しい暑さが続き、各地で猛暑日を記録した。寒冷前線の通過に伴い、午後からは関東でも雷とともに激しい雨に見舞われた。一時、雷の影響とみられる停電が東京都や栃木県など1都3県で起き、埼玉県などを中心に一時、3万世帯近くに達した。

◆仙台市でゲリラ豪雨 浸水や落雷、停電も

宮城県内は31日、上空に暖かく湿った空気が流れ込んだ影響で大気が不安定になり、仙台市内などで局地的な大雨が降り、浸水や停電の被害が相次いだ。

＝31日正午ごろ、仙台市青葉区

◆電力小売り自由化 後の契約・解約一括手続きは？

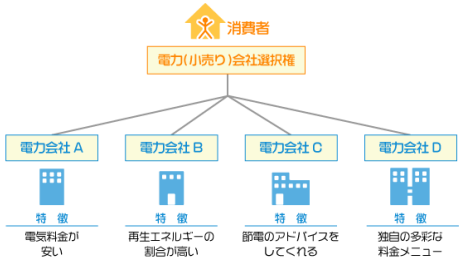
経済産業省が電力小売りの全面自由化を2016年4月1日に実施する方向で検討に入ったことが29日、分かった。実施後に利用者が電力会社を乗り換える際、契約・解約の手続きを一括して行う仕組みの導入案が示された。契約移行に伴う手続きを円滑化し、新規参入業者と大手電力会社との競争条件を整える狙い。実現すれば電力会社間の競争が進むとみられる。

利用者が新たに契約する電力会社の窓口で申し込みする際、同時にそれまで契約していた電力会社の解約手続きもできるようにする。電力各社が持つ送配電情報の管理システムを共通化し、契約の切り替えに必要な情報を円滑にやり取りできるようにする方針だ。

また、大手電力会社が新規参入業者に送電線を貸す際の費用を安くするための制度案も示された。新規事業者は発電した電力を契約者に届けるため、送電網を保有している大手電力に「託送料金」と呼ばれる利用料金を支払っている。

同制度を改定し、託送料金の算定根拠とした人件費などが適正かどうかを政府が厳格にチェックする。託送料金が低減されれば、新規事業者が販売する電気料金が安くなる可能性がある。

来年7月に小売り事業者の事前登録を受け付け開始し、2016年1月から小売り事業者の変更を希望する消費者を対象に、事前手続きを受け付ける予定だ。



電力新聞
8月1日
金曜日
発行元
（株）フロンティアO's
東京都中央区八丁堀3-11-8
ニチト八丁堀ビル8F
TEL:03-5540-4374
ホームページ検索
フロンティアオーズ
http://www.frontier-os.co.jp/

大規模停電への警戒怠るな「原発ゼロ」の夏

◆深刻な電力不足懸念

今年は初めて、「原発ゼロ」の夏となり、深刻な電力不足が懸念されている。政府は、具体的な節電目標を見送り、自主的な節電の要請にとどめた。「企業に与える影響に配慮した」と説明するが、猛暑で電力需要が急増すれば、電力不足から大規模停電が発生する恐れもある。

昨年夏に稼働していた関西電力の大飯原発3、4号機は昨年9月以降、運転を停止している。両機合計で240万キロワットあった電力が今回は失われる計算だ。深刻な電力不足に陥る事態は否定できない。とくに震災前に原発比率が高かった関電と九州電力ではピーク時の電力需要に対する受給予備率が極めて低い水準にある。両者の需給率がいかに危ういかというと、関電の余力は51万キロワット、九電では22万キロワットしかない。これは中規模の火力発電所1基がトラブルで運転を停止すれば、すぐ吹き飛んでしまう水準なのだ。

原発停止の長期化に伴い、火力発電所のフル操業が続いている。この中には、建設から40年以上を経た老朽火力も含まれており、今では火力発電全体の25％を占める。故障やトラブルが頻発していることも気がかりだ。

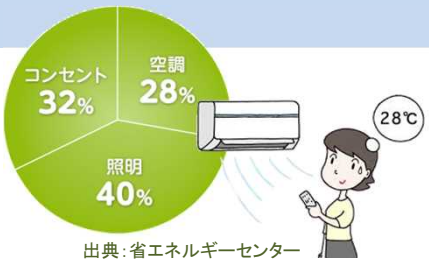
経済産業省も危機感を示し、電力業界に火力発電所の点検を求めたほか、西日本の電力各社に予備率の積み増しを要請した。これを受けて関電と九電ではそれぞれ20万キロワット程度を増やしたが、その中身は大口顧客に対し、需給ひっ迫時に電力使用を制限してもらう需要抑制が中心だ。原発ゼロのままでは需給力を大きく高めることはできない。

夏場に気温が1度上がると、電力需要は500～700万キロワット増えるとされている。原発ゼロの想像以上に大きい需給ひっ迫が突発的な大規模停電に発展しないよう、計画停電などの準備も不可欠になってく可能性もあるだろう。

◆企業でできる！快適性を兼ね備えた節電のポイント

一般的に「節電」は、電力消費量を抑えるために我慢をしたり、「快適性」を犠牲にしてしまうイメージがあります。ここでは、「快適性」を出来るだけ損なわずに実現できる取り組みをご提案。

●オフィスにおけるエネルギー消費の割合（右図）
これら3つの設備について、消費を減らすことが節電のポイントとなります。



出典：省エネルギーセンター

1.照明で節電！
- 執務エリアの照明を半分程度間引きする。
- 使用してないエリア（会議室・廊下等）は消灯を徹底する。
- 昼休みなどは完全消灯を心掛ける。
- 従来型蛍光灯を、高効率蛍光灯や、LED照明に交換する。

2.コンセント動力で節電！
- エレベーターやエスカレーターの稼働を半減／停止する。
- 電気式給湯器、給茶機、温水洗浄便座、エアタオル等のプラグをコンセントから抜く。

3.OA機器で節電！
- 長時間席を離れるときは、OA機器の電源を切るか、スタンバイモードにする。

4.空調で節電！
- 執務室の室内温度を28℃とする。
- 使用していないエリアは空調を停止する。
- フィルターを定期的に清掃する。
- 朝の涼しい時間帯から設備を起動したり、分散起動することにより、立ち上げによるピーク電力上昇を抑制する。

◆節電にも一役買います！蓄電池・ENEBOX（エネボックス）

災害時の急な停電・電圧変動などによる電源トラブルを回避するとともに
節電としても役立てられるENEBOX。さまざまな環境を強力にサポートします。

活用シーン例

医療機関	企　業
老人ホーム	研究所
自治体	一般家庭

詳しくはHPやカタログをご覧下さい。

ENEBOX-ZERO

新製品のご案内　NEW

太陽光パネルからの充電のみで、
完全電気代ゼロのシステム！

「ENEBOX-ZERO」近日発売
※詳細は後日HPにアップします。

検索

フロンティアオーズ